①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・合併，増加，求残，求部分，求差の計算ができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・残りはひき算で表されることを学習している。

教材研究ノート№1-A-12

≪学習問題≫

≪学習問題≫

のりものの　けんが　14まい　あります。

9にんの　こどもに　１まいずつ　わたすと，

なんまい　のこりますか。



主眼

授業計画･実施記録

②見通し：何枚残りますかだから，ひき算で計算ができそうだ。

 →　乗り物のけんと，人数をそれぞれ数図ブロックに置き換えて，考えればよさそうだ。

②学習課題：乗り物のけんと子どもの数を，数図ブロックや情景図に置き換えて，14－9の計算を考えよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：乗り物のけんと子どもの数を，数図ブロックや情景図に置き換えて，14－9の計算の仕方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの計算でも，同じように考えていることは何かな？」

→「数図ブロックに置き換えて，ひき算で計算している。」

④共同追究後半（ゆさぶり）

「14－9は，14枚－9人であり，けんの枚数から人の人数をひくことはできないのではないか？」

→「9人の子どもがけんを1枚ずつ持っているから，9は枚数。」

　「9人の子どもに1枚ずつけんを渡すので，引いているのは人数ではなくけんの枚数だからひいてもよい。」

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・乗り物のけんの枚数で考えると，ひき算で計算できる。

・子どもの数をけんの枚数で置き換えて考えると，(けんの枚数)－(けんの枚数)となって，計算することができる。

⑥定着･活用問題

写真をとります。6つのいすに一人ずつすわり，うしろに7人立ちます。何人で写真をとりますか。

①何を何に置き換えて，式をつくればよいでしょう。

②式をつくって計算しましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・本時は，第1学年で最初に取り扱われる文章題であることから，思考法を大切に扱いたい。

・課題把握では，求めるもの，分かっていることを，下線を引きながら確認するなど丁寧に扱いたい。

・考え方を自分の言葉で丁寧に説明させるために，ペア学習やグループ学習を取り入れてもよい。

≪定着・活用問題≫

【板書計画】